

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿った施設目標を職員で考え、同じ目標に向かって日々努力している。	開所当初に事業所全体で作上げた理念を基に利用者の状況変化もみられる中、地域密着型の意義や役割を考え、各ユニットの職員全員でケア目標について再度話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図り、共有しながら日々のサービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事「お茶の間」「お食事会」「七夕まつり」等に積極的に参加している。	地域の人々とは単に挨拶を交わすのみではなく、事業所は地域住民の一員として地域行事への参加は勿論、「地域の茶の間」へも継続的参加支援に努めている。その折の食事会も楽しんでもらう等、今まで培ってきた利用者と地域との繋がりを意識した支援を心掛けている。近隣の方々には畑づくりの手伝いをしていたり、野菜のおすそ分けをいただいたり、日常的な交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に出ることにより、認知症の方との直接的な関わり持つようにしている。また、年2回広報を発行し、GHの様子を回覧している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が、2か月に1回開催し、日頃の取り組みについて報告し、意見やアドバイスをいただいている。	運営推進会議は2カ月毎に開催され、運営状況の報告後、メンバーから多角的な視点からの意見や助言、要望等、有益なアドバイスもいただき双方向的な会議となるよう心がけ、サービス向上に活かしている。	運営推進会議では事業所からの報告と共に参加メンバーから意見や要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。今後は会議で取り上げられた検討内容やアドバイスについての経過報告も持ちながらサービス向上に具体的に活かしていけることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、日頃の取り組みやアドバイスをいただいている。	市の担当者とは日ごろから連携を密に取っており、運営推進会議にも出席してもらい助言等いただいたり、利用者の生活の様子も見てもらうなど、気軽に何でも相談できる関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や会議棟で全職員が理解し、拘束しないケアに取り組んでいる。また、玄関、リビングなどの鍵は常にオープンにし、利用者様が自由に行き来できるようにしている	母体の総合研修会へ参加して身体拘束をしないケアについて学び理解を深めている。業務の中での気づいた場合は職員会議の中でも話し合いながら利用者の安全に努め、利用者にとって抑圧感のない自由な暮らしを支えている。	研修や会議での話し合いの中で職員全体の理解を深め、利用者の安全と抑圧感のない生活を支えている。今後も勉強会を継続していく中で、折に触れ確認できる資料も整備していかれることを期待したい。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修を受け、伝達講習を行い全職員が把握できるようにしている。また、入浴時、おむつ交換時には身体チェックを行いながら報告しあっている。	外部研修に参加した職員が資料をもとに内部研修を実施し、虐待防止についての理解を深めている。また、入浴時やおむつ交換時の身体チェックも行い、お互いに報告しあっている。管理者は職員が心身共に安定して業務に就けるよう、様子をみながらお互いに相談し合える関係作りに努める等の工夫を行っている。	外部研修に参加した職員が資料をもとに内部研修を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解の浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。今後も全職員が高齢者虐待防止法について、更に理解を深めていくために研修の記録や資料の備えも期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様がありますが、十分に理解している訳ではない為、今後全員が把握できるようにしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項の説明と契約書の説明を十分に行い、理解、納得した上で契約して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず状態報告をし、意見を聞いている。また、ケアプラン変更時には意見や要望を聞いている。	家族面会時には何でも話しやすい雰囲気づくりに努め、状況報告と共に意見を窺っている。また、ケアプラン変更時にも意見や要望を窺う等、自然な関係性の構築に配慮している。利用者からは日々の何気ない会話に耳を傾け意見や要望把握に努め、いただいた意見は会議で検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、職員会議等で職員の意見や要望を出してもらい反映させている。また、年1回の職員アンケートにより、必要時は面談を行っている。	ユニット会議や職員会議で意見や要望を聞いている他、年1回のアンケート調査の中からも意見や要望をくみ取るようにしている。管理者とは何でも話しやすい関係性にあり、会議の中では有意義な意見交換がなされ運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士やケアマネ手当などを作り「資格」を取得する目標や向上心を持って働ける環境を作っている。また、職員の個人的事情があっても勤務体制の変更等行い、働きやすい職場に勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修に加え職員の意見を反映した社内研修を企画し、研修に参加できる環境作りを行っている。本人の学ぶ意欲を大切にしてスキルアップできる取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1回、GH管理者意見交換会に参加し、情報交換を行っている。また、年1回の交流会を行い、職員同士の悩み等共有している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問、面談で家族、ケアマネより情報を収集し、本人には困っていること、不安なことはないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問、面談で家族、ケアマネより情報を収集し、家族との関係性や要望等伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず見学に来ていただき、本人や家族の思いや状況等を確認し、支援の提案等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支えあい分かち合う関係に留意しながら、一緒にできる作業を提供し、食事づくりや、家事作業に協働しながら、穏やかな生活が送れるようにしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、一緒にお茶を飲みながらゆっくり過ごして頂いている。誕生会や大忘年会などの行事にも家族への参加を呼びかけ、家族と円満な関係を維持できるよう支援している。	年2回の広報誌には利用者の生活ぶりや外出、行事開催時の写真を載せて家族に送付している。また、面会時には和やかにお茶を飲みながらゆっくり過ごしてもらっている。本人と共に居室内に写真を掲示したり、自宅外泊を通しての協力も得られ、共に本人を支えていく姿勢で、今後もより良い関係性を構築していけるための支援に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	2か月に1回行われる地域の「お茶の間」へ参加し馴染みの方との交流を図ったりしている。また、バスハイク等で思い出の景色や馴染みの場所へ外出できるよう計画している。	入居前に本人、家族から馴染みの人や場に関する情報を把握している。また、これまで培ってきた馴染みの人との関係が継続出来るように面会の奨励にも努め、家族や事業者の協力を得て「いきつけ」の理容室へ行けるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や得意、不得意を理解し全員が楽しく穏やかに過ごせるよう職員がつなぎ役となっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前利用されていたご家族が、ボランティアとして畑作りや草刈り等ホームに足を運んで下さったり、知り合いの申し込みをしてくださったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、主に会話の中から本人の思いや希望を把握するよう心掛けている。特に入浴時や1対1になる機会を本音を聞ける好機ととらえ注意深く把握に努めている	利用者、家族からこれまでの暮らしぶりや意向の把握に努め、日々の会話の中での言葉や表情からもその思いを汲み取り、把握した情報は利用者個々のノートに記録し、職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心をはらい、把握していくよう努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族や、ケアマネ等からの情報を頂きご家族からも、「暮らしの状況」を記入して頂き情報を集め、把握に努めている	本人、家族、前担当者から「暮らし状況」の情報をもらい、日々の生活の中でその人らしい暮らしが継続できるよう把握に努めている。畑で野菜作りの収穫や編み物、手芸など楽しみの中に、有する力を発揮出来るように継続的な生活支援を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の状態を見ながら、日々申し送りにて報告しあい、ユニット会議等で対応方法の統一を図ったり、意見を出し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、居室担当者が「評価表」を用いて介護計画の評価を行い、計画作成者に提出している。また、見直しの際は、家族の意向を確認しながら介護計画を作成し職員には意見録を廻しそれを基にカンファレンスを実施している。	日頃のかかわりの中で本人、家族と話し合いながら思いや意向を反映させた介護計画を作成させている。また、担当者が行うモニタリングの結果、見直しが必要な場合にはカンファレンスの中で情報を共有し、モニタリングに基づいた介護計画を作成している。	モニタリングは担当職員が中心となり実施され、日々の記録も根拠にしながら介護計画の見直しに活かしている。今後も事業所独自のアセスメント票の作成を繰り返し行いながらより利用者の状況把握に努めていかれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りにて、情報の共有を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に沿えるよう、柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりを大切にして、地域の行事に参加し交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	囑託医の往診、受診は必要時受けられる体制は整っており、月2回の定期的往診がある。	協力医療機関が隣部落にあり、医療機関として協力的で、緊急時の受診や相談など臨機応変に対応してもらうなど、適切な医療が受けられるよう支援している。定期的な往診を通し、利用者、家族の心身への負担軽減に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、体調の変化はその都度相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、様子を見に行ったり、病院関係者との情報交換をしたり早期退院に向け受け入れがスムーズに対応できるよう行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応として嘱託医からご家族へ施設で行えることの説明を行い、ご家族の希望を第一に優先し支援している。	終末期支援については、看取り介護の「重度化対応・終末期ケア対応指針」が示され、入居時、本人家族に説明されている。法人として看取りを行う方針であり、研修を通じ医療の知識も習得されている。委託医の協力の下、家族の要望に沿った終末期に向けた体制を整えている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は定期的を受けており、急変、事故発生時には管理者、看護師、嘱託医へ連絡し支持が受けられる	急変や事故発生時に備え、研修や消防署の協力を得て定期的に緊急救命法の訓練を行い確認している。委託医や看護師とは常時連携でき、いつでも対応できる体制準備を整えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中や夜間を想定し、訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加している。	年間防災計画に従い、昼夜間の避難訓練を2回実施している。地域の防災訓練には利用者と共に定期的に参加している。避難場所への誘導方法や誘導時間など利用者が安全に避難できる方法を職員全体で確認し合っている。	災害対策は年2回実施訓練を行っている。地域の防災訓練にも利用者と共に参加して、地域との協力体制を築き避難経路確認等様々な実践力を身につけているので、今後は訓練参加時の記録作成も心がけ共有して行かれることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊重や人格を大切にし、そのときに応じた声掛けに注意し、対応している。	利用者個々の関わりの中で行動を制限せず、言葉遣いや目線など、誇りやプライバシーを損ねることのないような対応に努めている。居室の名前も個人情報として伺い掲げている。コーナーでの車椅子座位時の足置き台や姿勢の崩れなどへのさりげないケアの工夫もなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を尊重し、希望があればその思いを実現できるようサポートしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の要望や状態に合わせ、その人のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容を利用したり、外出時には洋服と一緒に選んだり、おしゃれする事を忘れないよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	大祭や神楽等、地域行事や季節に合った献立を職員が作成し、提供している。時には食べたいものを聞いたり外食にて好きなものを選んだり食事を楽しめるよう支援している。	献立は利用者とチラシを見たりして作られることもある。地域の方々と合同で行事食や近くの畑で採れた旬の野菜を使い、季節感を盛り込んだメニューで、変更や追加を行いながら提供している。職員も利用者と共に食卓を囲み和やかな雰囲気となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量や水分量をチェックして個々の状態を見ながら調整を行っている。また、好きなもの、好きな飲み物を摂って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを各自に応じて対応し、夕食後は義歯を預かり、洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、時間帯で誘導を行い、失敗を軽減できるよう支援し、トイレでの排泄ケアを行っている。	利用者個々排泄チェック表を活用し、時間誘導や利用者に合わせて誘導方法で支援している。失禁時もさりげない態度で利用者の尊厳を理解した対応に努めている。布パンツを当たり前として、機能低下予防に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には水分を多めに摂取して頂いたり、乳製品や軽い運動を促したりしている。必要に応じてお茶や、内服等に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回、午後からの入浴となっており、一般浴槽が困難な方には特浴での入浴を行っている。湯船に浸かってゆっくと職員とのコミュニケーションをとるようにしている。	個々の状態や身体状況に合わせ、清拭、足浴に変更など、柔軟に対応している。利用者の機能を活用し、個浴や特浴の個別対応を行っている。入浴を拒まれる方には無理強いすることなく、言葉がけの工夫や時間変更も行いながら入浴支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や活動意欲に応じ、できる限り全員が生活のリズムを整えていけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能、副作用が書いてある物をファイルし、職員全員が把握できるようにしている。また、薬ケースには一人ひとり明記し、声掛けなどで確認を徹底し服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好み、能力に応じた作業を提供し会話を楽しみながら行ったり、その都度感謝の言葉かけを伝えるよう心かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域からの誘いの行事にはできる限り参加をし、気分転換を図っている。	外出は車に関係もあるが、地域のお茶の間会、お食事会、文化祭、運動会、村上大祭など、季節に応じて外出を楽しむ機会を設け、利用者の気分転換が図られている。リビングには外出時の思い出の写真が掲示され、表情からも楽しさが窺われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の金銭管理は職員が行っているが、外出する際は買い物ができるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話を掛けられるよう配慮し、ご家族や知人からの電話を取り次いでいる。また、手紙の代読も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には手作りのカレンダーを貼ったり、共有スペースには季節に合った飾りつけを行い、四季感を感じてもらえるようにしている。また、行事や日常の写真、利用者様の作品などを展示している。	共有空間は明るく、山、海に囲まれた居間には季節に応じた飾り付けが施され、四季を通し居心地よい空間づくりがなされている。キッチンと共有空間には畳のコーナーもあり、調理の匂いや音が懐かしい生活感を感じるなど家庭的な雰囲気が醸し出されている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや畳スペースがあり、誰もがくつろげるスペースを作っている。また、ユニットを行き来できるよう声掛けをし、気の合った利用者様同士が過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の要望に応じて馴染みの品々を自由に持ち込んで頂いており、居心地の良い居室作りを支援している	本人や家族と相談し、普段から使い慣れた馴染みの物や家族写真、持参した思い出の品物、装飾品などが飾られている。窓から粟島や佐渡が眺められ、磯の香りが懐かしさと居心地良さを感じる。家具の配置も自由に安心して過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の残存機能を活かせるよう支援し、定期的に会議、日々の申し送り時に情報交換している。		